

## 福岡県宇美町の三郡山系，四王寺山脈および井野山 における木本種リスト

板橋，幸史

九州大学大学院生物資源環境科学府環境農学専攻森林環境科学教育コース

金谷，整一

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所

玉泉，幸一郎

九州大学大学院農学研究院環境農学部門森林環境科学講座

梅田，裕紀

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所

他

<https://doi.org/10.15017/3051280>

---

出版情報：九州大学農学部演習林報告. 101, pp.48-60, 2020-03-27. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン：  
権利関係：

## 福岡県宇美町の三郡山系、四王寺山脈および井野山における木本種リスト

板橋幸史<sup>1</sup>, 金谷整一<sup>2</sup>, 玉泉幸一郎<sup>3</sup>, 梅田裕紀<sup>2</sup>, 宮崎和弘<sup>2</sup>, 作田耕太郎<sup>3</sup>, 松尾尚哉<sup>4</sup>

福岡県糟屋郡宇美町は2020年に町制100周年を迎えるにあたり、記念としての町誌作成に取り組んでいる。本研究では、その一環として宇美町内の森林域である三郡山系・四王寺山脈・井野山の3つのエリアについて木本種リストを作成した。各エリアの宇美町内の登山ルートすべてを対象として現地調査を行い出現した木本種を同定し、記録した。また資料調査として過去に行われた同エリアの木本種の調査記録を精査し、本研究の現地調査と合わせて整理した。結果として三郡山系で204種、四王寺山脈で184種、井野山で83種、全体では284種の木本種が確認され、このうち針葉樹は11種、広葉樹は267種、イネ科のタケ類・ササ類が6種であった。環境省および福岡県のレッドリストには、それぞれ2種および8種が掲載され、貴重な植生が現存していることが示唆された。

キーワード：木本種リスト、宇美町、三郡山系、四王寺山脈、井野山

As Umi town, Kasuya county, Fukuoka Prefecture is celebrating its 100th anniversary in 2020, it is working on the compilation of a town magazine as a commemoration. In this study, as part of the town magazine, we listed woody species for the Mts. Sangun, Mts. Shiouji, and Mt. Ino, which are forest regions in Umi town. The field survey was conducted on all mountain trails of the three mountain areas in Umi town. In each area we identified and recorded the woody species. In addition, we reviewed the past records of the woody species for the same area and organized it together with the field survey of this study. As a result, 204 species of the Mts. Sangun, 184 species of the Mts. Shiouji, 83 species of Mt. Ino were confirmed, and a total of 284 woody species have been currently recorded in Umi town. Among them, there were 11 species of conifers, 267 species of broad-leaved trees, and 6 species of Poaceae bamboo and sasa. There are 2 and 8 species in the Red List of Ministry of the Environment and of Fukuoka Prefecture, respectively. So, we concluded that valuable vegetation remained in three mountain areas of Umi town.

**Key words:** Woody species list, Umi town, Mts. Sangun, Mts. Shiouji, Mt. Ino

## 1. はじめに

森林植生は、気温、降水量、積雪、地形、土壌、標高などの自然環境条件に加え、自然攪乱や人為的干渉など様々な因子の影響を受けて成立している。近年では、森林に対するシカの害（前迫・高槻 2015）、気候変動による温暖化（田中ら 2006；松井ら 2009）および越境大気汚染物質（永淵 2000；久米ら 2011）等の外的要因が及ぼす影響の高まりが懸念されている。このことから、各地に残る貴重な森林の将来的な保全や利活用を進める上で、その群落構造や動態を把握することに加え、森林内外に現存する木本種リストの整理のような科学的情報の集積は、重要かつ不可欠な作業である。

本研究で対象とした宇美町は、福岡市という比較的大きな都市の近郊に位置しており、九州最北端のブナ林を含む三郡山系（西尾・福嶋 1996）をはじめ、1976年に「県民の森」として整備された四王寺山脈および井野山といった森林地帯が広く残存している。特に三郡山系には、ブナ (*Fagus crenata*) やモミ (*Abies firma*) 等を中心とする複数の貴重な森林群落が存在している（環境庁 1980；福岡県 2019）。しかしながら、これらを対象とした報告は、ブナ林における組成および構造（西尾・福嶋 1996；井上・山野辺 2000；板橋ら 2019）、モミ林の衰退に対する大気汚染物質の影響（須田ら 1992；宇都宮ら 1993）および宝満山周辺の植生史（冷川 2011）など限定的である。また、三郡山系全域、四王寺山脈および井野山に出現する木本種のリス

Itabashi, K\*, Kanetani, S., Gyokusen, K., Umeda, Y., Miyazaki, K., Sakuta, K., Matsuo, N.: A list of woody species of Mts. Sangun, Mts. Shiouji and Mt. Inoyama in Umi town, Fukuoka Prefecture, Southwestern Japan

\* 責任著者 (Corresponding author): E-mail: 5087key3193@gmail.com 〒 819-0395 福岡市西区元岡 744

<sup>1</sup> 九州大学大学院生物資源環境科学府環境農学専攻森林環境科学教育コース

Educational course of Forest Environmental Science, Department of Agro-environmental Sciences, Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University

<sup>2</sup> 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所

Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute, Forest Research and Management Organization

<sup>3</sup> 九州大学大学院農学研究院環境農学部森林環境科学講座

Division of Forest Environmental Science, Department of Agro-environmental Sciences, Faculty of Agriculture, Kyushu University

<sup>4</sup> 宇美町役場

Umi town office

トについては、現在に至るまで整理されていない。

本研究では、宇美町内に残る森林植生を将来的に保全していくための基礎資料としての木本種リストを作成することを目的とし、三郡山系、四王寺山脈および井野山における木本種の分布について現地の調査を行うとともにこれまでの情報を収集・整理した。

なお、本研究は宇美町が2020年に町制施行100年の節目を迎えるにあたり、『新修宇美町誌』の編さん事業を行っている中で、歴史、民俗、行政等に加え、前回発刊された50周年記念誌には含まれていなかった自然史的な記録を残すための調査の一部に基づいている。

## 2. 調査地および調査方法

### 2.1. 調査地

宇美町は、福岡市の東南東約15km (33°31'48"N ~ 33°35'35"N, 130°29'15"E ~ 130°35'2"E) に位置し、面積は30.21km<sup>2</sup> (3,021ha) であり、そのうち森林は約61%にあたる18.37km<sup>2</sup> (1,837ha) に達する。これらの森林は、国有林が688ha、民有林が1,149ha (独立行政法人等: 37ha, 公有林: 497ha, 私有林: 615ha) に分かれる (農林水産省2019)。直近の気象ステーション (大宰府, 33°29'48"N, 130°29'24"E, 標高52m) における1999年から2018年までの20年間を平均した年平均気温は16.5℃、年降水量は1870.2mmである (気象庁 2019)。

調査地は、宇美町内に森林植生が残存する三郡山系、四王寺山脈および井野山とした。三郡山系については、若杉山 (篠栗町若杉, 33°35'52"N, 130°32'41"E, 標高: 681m, 以下同) から宝満山 (筑紫野市油須原, 33°32'23"N, 130°34'08"E, 829m) への縦走路である主尾根部のうち、ショウケ越 (須恵町佐谷, 33°35'45"N, 130°33'38"E, 500m) ~ 鬼岩谷 (33°35'13"N, 130°33'58"E, 774m) ~ 砥石山 (33°34'45"N, 130°34'05"E, 828m) ~ 前砥石山 (飯塚市内住, 33°34'36"N, 130°34'24"E, 805mm) ~ 三郡山 (33°33'20"N, 130°35'02"E, 936m) ~ 頭巾山 (33°33'12"N, 130°34'42"E, 901m) ~ 仏頂山 (筑紫野市本道寺, 33°32'32"N, 130°34'20"E, 869m) の範囲に加え、各山域の登山道となっている支尾根沿い等とした (表1, 図1)。すなわち「宇美 (猫目) 新道コース」, 「河原谷コース」, 「難所ヶ滝コース」, 「頭巾山コース」, 「樺谷 A コース」, 「内ヶ畑 B コース」および「砥石山コース」等である (宇美町2018)。これらの調査ルートは、林齢55~171年 (2018年時点) の国有林内であり、「大宰府県立自然公園」に含まれる。なお「樺谷 B コース」は、2018年7月の大雨による登山道崩落で通行禁止であったため (宇美町2018)、調査は実施しなかった。

四王寺山脈には、664年に築かれた日本最古の古代山城である大野城跡 (国指定特別史跡) があり、外周に大城山 (33°32'17"N, 130°30'50"E, 410m)、大原山 (33°32'10"N, 130°31'47"E, 354m)、岩屋山 (太宰府市観世音寺, 33°31'34"N, 130°31'13"E, 281m) および水瓶山 (太宰府市連歌屋, 33°31'40"N, 130°31'38"E, 212m) を配する。調査ルートは、1976年に設置された県民の森 (面積: 342ha) を中心に複数ある散策道のうち宇美町内に含まれるルートとした (図2)。

井野山 (33°33'37"N, 130°29'47"E, 236m) は、宇美八幡宮の御神体山とされ、宇美八幡宮 (宇美町宇美, 33°34'13"N, 130°30'32"E) から南西1.5kmに位置する。ここでの調査ルートは、山麓の八幡産宮 (宇美町井野, 33°33'42"N, 130°30'09"E) から頂上に向かう車道沿い (車両通行止めゲートあり) および頂上付近の散策道とした (図3)。

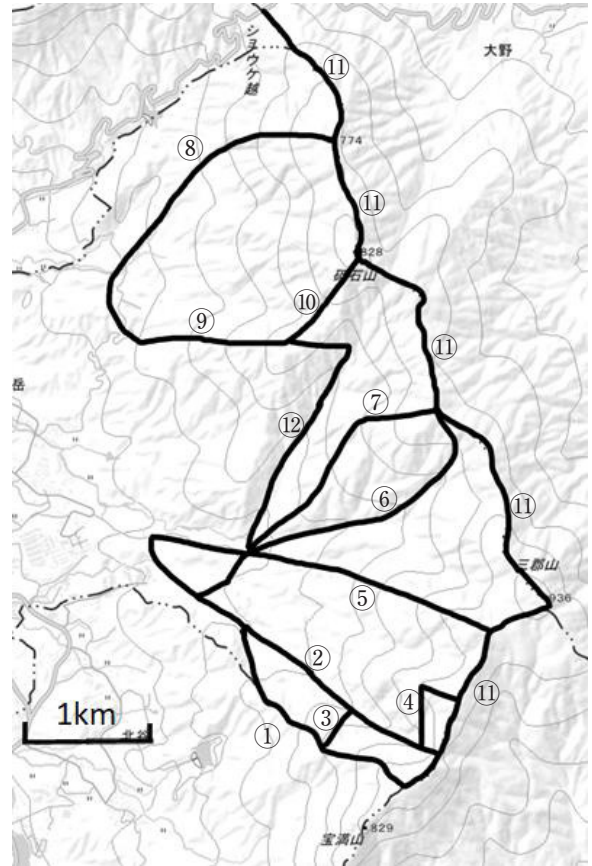


図1. 三郡山系調査ルート

国土地理院の電子形図に調査ルートを追記した番号は表1参照。⑫樺谷Bコースは登山道崩落のため調査対象外

表1. 調査ルートの水平距離および標高

調査ルート	距離 (km)	調査標高 (m)		
		最低	最高	差
<b>三郡山系</b>				
①宇美 (猫目) 新道コース	2.1	298	869	571
②河原谷コース	1.87	295	815	520
③河原谷~宇美新道	0.41	505	600	95
④難所ヶ滝コース (途中分岐から)	0.66	660	855	195
⑤頭巾山コース	2.03	310	901	591
⑥樺谷 A コース	2.96	310	765	455
⑦内ヶ畑 B コース	2.03	280	782	502
⑧砥石山コース	0.96	635	828	193
⑨厄神社~鬼岩谷	1.97	240	774	534
⑩砥石山登山口~厄神社 (神武原)	1.97	240	635	395
⑪ショウケ越え~仏頂山	7.54	500	936	436
<b>四王寺山脈</b>	13.70	194	410	436
<b>井野山</b>	1.98	48	236	188



## 2.2. 調査地の植生

環境庁（1980）によれば、三郡山系（宇美町内）には、「砥石山のアカガシ林（群落名：アカガシ-ミヤマシキミ群集）」ならびに「三郡・宝満山の自然林（ブナスズタケ群集コバノミツバツツジ亜群集）」が重要な植物群落とされている。なお、「三郡・宝満山の自然林」には、他にも「モミ-シキミ群集」および「アカガシ-ミヤマシキミ群集」が含まれるが、いずれも所在は隣接する筑紫郡太宰府町（現：太宰府市）となっている（環境庁 1980）。

また、福岡県レッドリスト（2019）に掲載されている植物群落は、三郡山系に5つある。すなわち、『カテゴリーⅡ（対策必要：対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する）』とされるのは、「ブナ群落」および「ツクシシヤクナゲ群落」であり、『カテゴリーⅢ（破壊の危惧：現在は保護対策が功を奏しているが、将来の破壊の危惧が大き

い』とされるのは「ケヤキ群落（ヤブツバキクラス）」、「アカガシ群落」および「イヌシデ群落」である。また、本研究の調査地とは同じ山塊であるが、所在が隣接する自治体となっている森林群落としては、『カテゴリーⅠ（緊急に対策必要：緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する）』に四王寺山脈（大野城市）の「アカマツ群落（代償植生）」があり、『カテゴリーⅢ』に宝満山（太宰府市、筑紫野市）の「モミ群落」がある（福岡県 2019）。

## 2.3. 調査方法

### 2.3.1. 現地調査

現地調査では、2018年7月から11月にかけて各調査地における調査ルート（図1～3）を踏査し、ルート沿いに出現した木本種を記載した。現地で種名を特定できなかった種については、枝葉を九州大学農学部造林学研究室（福岡市東区箱崎あるいは西区元岡）に持ち帰り、植物図鑑（林 2014）等で照合し同定した。なお、種名および学名については、主に「日本の野生植物 木本（Ⅰ,Ⅱ）」（佐竹ら 1989）によったが、科についての分類は APG Ⅲ（被子植物の新分類体系である APG 体系の最新版）に従った。

### 2.3.2. 資料調査

本研究の現地調査で記録された木本種について、環境省（2019）ならびに福岡県（2019）のレッドリストへの掲載状況を確認した。

さらに、福岡県森林林業技術センター（現：福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター、福岡県久留米市山本町）に植物標本として所蔵されている木本種のリスト（猪上 2005）や過去の報告（環境庁 1980；井上・山野辺 2000；初島 2004；板橋ら 2019）を精査し、採取地や分布地が本研究で実施した現地調査と同エリア内であった木本種を抽出した。抽出にあたっては、採取地（分布地）が「三郡山」あるいは、いずれかの山や地名（例えば、砥石山や櫻谷等）に加え、同山系の砥石山東側にあたる筑穂町（現：飯塚市）における採取（分布）の場合であっても、現地調査を行ったエリアと重なることより「三郡山系」の分布として取り扱った。また、四王寺山脈に関しては標高差が比較的小さく、山塊も広くないことより宇美町内外での植生に大きな差はないだろうと思われた。そのため、採取地（分布地）が隣接する「大野城市の四王寺」として記録されていても、同じ「四王寺山脈」での分布として取り扱った。さらに、山系以外の宇美町内の地名で採取記録が認められた木本種についても、「宇美町内」の分布として整理した。

一方、隣接する「若杉山（須恵町あるいは篠栗町）」および「宝満山（太宰府市あるいは筑紫野市）」での記録があった木本種については、宇美町の調査範囲外であったため現地調査は行わなかったが、記録されている種が同山系の宇美町内にも分布している可能性を考慮して、「三郡山系（宇美町外）」として記録した。

なお、「四王寺山脈」では、「県民の森」設置時（1976年）

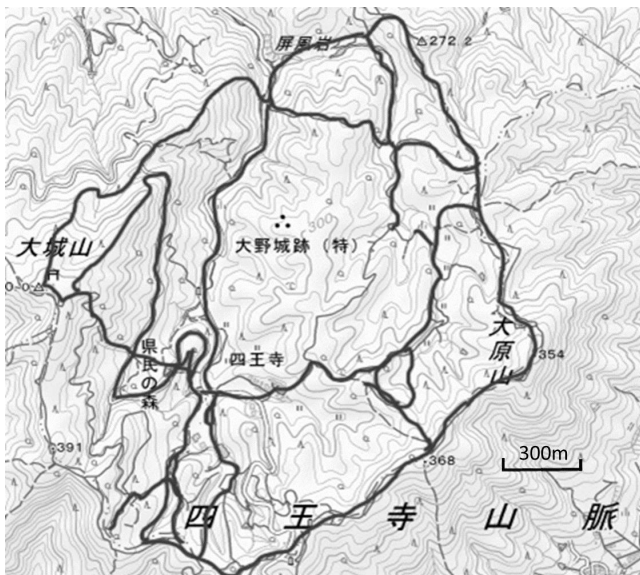


図2. 四王寺山脈調査ルート  
国土地理院の電子地形図に調査ルートを追記した



図3. 井野山調査ルート  
国土地理院の電子地形図に調査ルートを追記した

およびそれ以降に植栽された木本種の記録（報告書）を確認できなかった。また、「井野山」については、分布する木本種が記載されている既存の資料（報告）はなかった。

### 3. 結果と考察

#### 3.1. 宇美町内の木本種

本研究の現地調査では253種、資料調査では135種の木本種が確認された。資料調査で確認された135種のうち、31種は現地調査では確認されなかった。以上より、合計284種を整理することができた。このうち針葉樹は11種、広葉樹は267種、イネ科のタケ類・ササ類が6種であり（表2）、現地調査を行った3つのエリアのいずれでも確認されたのは61種だった。この61種の中で、スギ（*Cryptomeria japonica*）とヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）は人工林として植栽されたものであった。自然分布していたのは、針葉樹ではアカマツ（*Pinus densiflora*）、常緑広葉樹ではタブノキ（*Machilus thunbergii*）、スダジイ（*Castanopsis sieboldii*）、アラカシ（*Quercus glauca*）、サカキ（*Cleyera japonica*）、ヒサカキ（*Eurya japonica*）、ヤブツバキ（*Camellia japonica*）、クロキ（*Symplocos kuroki*）、シャシャンボ（*Vaccinium bracteatum*）およびカクレミノ（*Dendropanax trifidus*）等であり、落葉広葉樹ではホオノキ（*Magnolia obovata*）、エノキ（*Celtis sinensis*）、ムクノキ（*Aphananthe aspera*）、コナラ（*Quercus serrata*）、エゴノキ（*Styrax japonica*）、コシアブラ（*Chengiopanax sciadophylloides*）、コガクウツギ（*Hydrangea luteorenosa*）等であった（表2）。

##### 3.1.1. 三郡山系

三郡山系（宇美町内）では現地調査で186種、資料調査で77種であった。資料調査で確認された77種のうち、59種は現地調査でも確認され、残り18種は資料調査のみの記録であり、三郡山系（宇美町内）では合計で204種の分布が確認された（表2）。

現地調査で植栽と判断されたのは、スギ、ヒノキ、アスナロ（*Thujopsis dolabrata*）の針葉樹3種とタチバナモドキ（*Pyracantha angustifolia*）の合計4種であった（表2）。スギならびにヒノキは、人工林内での観察はもちろんのこと、主尾根筋にも散見された。アスナロは、仏頂山頂上付近の西側で観察された。この周辺は国有林であることから、福岡森林管理署の森林調査簿等を確認したがその記載はみられなかった。しかし、宝満山に分布するアスナロはもともと植栽とされていることから（初島2004）、植栽由来の可能性が高いと考えられた。タチバナモドキは中国原産の落葉低木であり、各登山道の入口にある「一本松公園（昭和の森）」の周辺に植栽されたものと考えられた。

他の針葉樹で特筆すべきものとして、モミがあり、仏頂山周辺に群落が形成されていた以外にも、単木的な分布が確認された。モミ以外の特徴的な種としては、ツクシシャクナゲ（*Rhododendron japonoheptamerum* var. *japonheptamerum*）があり、頭巾山と仏頂山を結ぶ尾根筋の北側斜面には大きな群落、頭巾山の頂上から西側に

100m程度下った北側斜面にも小規模群落が確認されるとともに、ブナが分布する林分の低木層に単木的に散見された。ところで、一般的にブナ林にはミズナラ（*Quercus crispula*）が随伴し、近隣の山域（背振山、釈迦岳、英彦山等）にあるブナ林でもミズナラと混交しているが（環境庁1980；西尾・福嶋1996；福岡県2019）、三郡山系においては、ミズナラの分布は確認されなかった（表2）。このことから、三郡山系におけるミズナラを欠いたブナ林は（板橋ら2019）、非常に特異的な存在であると考えられる。

なお宇美町外の三郡山系において、資料調査では79種が確認された（表2）（環境庁1980；猪上2005）。また三郡山系以外の宇美町内では、10種の採取記録がみられた（猪上2005）。

##### 3.1.2. 四王寺山脈

四王寺山脈では、現地調査で177種、資料調査で27種が確認できた。資料調査でのみ確認されたのは7種であり、全部で184種が記載された。このうち49種は、四王寺山脈のみで確認された。現地調査で確認された、イチヨウ（*Ginkgo biloba*）、メタセコイア（*Metasequoia glyptostroboides*）、ハクモクレン（*Magnolia denudata*）、ユリノキ（*Liriodendron tulipifera*）、ゲッケイジュ（*Laurus nobilis*）、ミツマタ（*Edgeworthia chrysantha*）、サンシュユ（*Cornus officinalis*）、キンモクセイ（*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*）およびトウコマツナギ（*Indigofera bungeana*）の9種は外国産であった（表2）。

また、冷温帯林に分布するとされるオオモミジ（*Acer amoenum*）、キハダ（*Phellodendron amurense*）、マンサク（*Hamamelis japonica*）およびナツツバキ（*Stewartia pseudocamellia*）のほか、福岡県内での自生地の環境が特異で限られている（四王寺山脈でない）カシワ（*Quercus dentata*）およびツゲ（*Buxus microphylla*）、県内に自生地がないヒユウガミズキ（*Corylopsis pauciflora*）やトサミズキ（*Corylopsis spicata*）、オカメザサ（*Shibataea kumasaca*）といった種は、植栽であると考えられた（表2）。一方、ネズミサシ（*Juniperus rigida*）については、1981年に採集の記録があり（猪上2005）、現在も分布していることが確認された。

イスノキ（*Distylium racemosum*）、オオバコナラ（*Quercus x major*）、サンカクヅル（*Vitis flexuosa*）、ケカマツカ（*Pourthiaea villosa* var. *zollingeri*）、ヒメイタビ（*Ficus thunbergii*）、ネコヤナギ（*Salix gracilistyla*）およびヤマアジサイ（*Hydrangea serrata*）は、猪上（2005）によって記載されていたが、本研究の現地調査では確認されなかった（表2）。

##### 3.1.3. 井野山

現地調査で83種の木本種が確認され、そのうち植栽と判断されたのはスギおよびヒノキに加え、ソメイヨシノ（*Cerasus yedoensis*）の3種であった（表2）。井野山のみで確認されたのは、ソメイヨシノをはじめ、ボロボロノキ

表2. 宇美町内外の各地において確認された木本種のリスト

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
<b>裸子植物</b>										
<b>イチョウ科 Ginkgoaceae</b>										
イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>	落葉高木	-	-	■	-	-	-	-	中国原産
<b>マツ科 Pinaceae</b>										
モミ	<i>Abies firma</i>	常緑高木	○	△	-	-	-	-	-	
アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>マキ科 Podocarpaceae</b>										
イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	-	
<b>ヒノキ科 Cupressaceae</b>										
ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	常緑高木	□	-	□	□	-	-	NT	
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	常緑高木	□	-	□	□	-	-	-	
ネズミサシ	<i>Juniperus rigida</i>	常緑小高木	-	-	◎	-	-	-	NT	
メタセコイア	<i>Metasequoia glyptostroboides</i>	常緑高木	-	-	■	-	-	-	-	中国原産
アスナロ	<i>Thuopsis dolabrata</i>	常緑高木	□	□	-	-	-	-	-	
<b>イチイ科 Taxaceae</b>										
イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	常緑小高木	◎	△	○	-	-	-	-	
カヤ	<i>Torreya nucifera</i>	常緑高木	◎	△	-	-	-	-	-	
<b>被子植物</b>										
<b>マツバサ科 Schisandraceae</b>										
シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	常緑小高木	◎	△	○	-	-	-	-	
サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>	常緑藤本	◎	-	○	-	-	-	-	
マツバサ	<i>Schisandra nigra</i>	落葉藤本	○	△	-	-	-	-	-	
<b>センリョウ科 Chloranthaceae</b>										
センリョウ	<i>Sarcandra glabra</i>	常緑低木	○	-	-	-	△	-	-	
<b>モクレン科 Magnoliaceae</b>										
ユリノキ	<i>Liriodendron tulipifera</i>	落葉高木	-	-	■	-	-	-	-	北米原産
オガタモノキ	<i>Magnolia compressa</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	-	
ハクモクレン	<i>Magnolia heptapeta</i>	落葉高木	-	-	■	-	-	-	-	中国原産
コブシ	<i>Magnolia praecocissima</i>	落葉高木	○	-	◎	-	-	-	-	
ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
タムシバ	<i>Magnolia salicifolia</i>	落葉高木	◎	△	○	-	△	-	-	
<b>クスノキ科 Lauraceae</b>										
クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	-	
ヤブニツケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>	常緑高木	○	△	○	○	-	-	-	
ゲッケイジュ	<i>Laurus nobilis</i>	常緑高木	-	-	■	-	-	-	-	地中海沿岸原産
カナクギノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i>	落葉高木	◎	△	○	-	-	-	-	
ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	落葉小高木	○	△	◎	-	-	-	-	
アブラチャン	<i>Lindera praecox</i>	落葉小高木	◎	-	-	-	-	-	-	
ウスゲクロモジ	<i>Lindera sericea</i> var. <i>glabrata</i>	落葉低木	◎	△	-	-	-	-	-	
シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	落葉小高木	◎	△	-	-	-	-	-	
クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	落葉低木	-	△	-	-	-	-	-	
バリバリノキ	<i>Litsea acuminata</i>	常緑高木	-	△	-	-	-	-	-	
カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	常緑高木	○	△	○	-	-	-	-	
ホソバタブ	<i>Machilus japonica</i>	常緑高木	○	△	-	○	-	-	-	
タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>	常緑高木	○	△	◎	○	-	-	-	
イヌガシ	<i>Neolitsea aciculata</i>	常緑高木	○	△	◎	-	-	-	-	
シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	常緑高木	◎	△	◎	○	-	-	-	
<b>サルトリイバラ科 Smilacaceae</b>										
サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	落葉藤本	○	△	○	○	-	-	-	
<b>ヤシ科 Palmae</b>										
シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	常緑小高木	-	-	□	-	-	-	-	
<b>アケビ科 Lardizabalaceae</b>										
アケビ	<i>Akebia quinata</i>	落葉藤本	○	△	○	-	-	-	-	
ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	落葉藤本	○	△	○	○	-	-	-	
ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>	常緑藤本	○	-	○	○	-	-	-	
<b>ツツラフジ科 Menispermaceae</b>										
アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	落葉藤本	○	△	○	-	-	-	-	
ツツラフジ	<i>Sinomenium acutum</i>	落葉藤本	○	△	-	-	-	-	-	
<b>メギ科 Berberidaceae</b>										
ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	常緑低木	○	-	○	-	-	-	-	



表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
<b>キンポウゲ科 Ranunculaceae</b>										
コボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitermata</i>	落葉藤本	○	-	○	-	-	-	-	
<b>ヤマモガシ科 Proteaceae</b>										
ヤマモガシ	<i>Helicia cochinchinensis</i>	常緑高木	-	-	○	○	-	-	-	
<b>ツゲ科 Buxaceae</b>										
ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	常緑小高木	-	-	□	-	-	-	VU	
<b>マンサク科 Hamamelidaceae</b>										
ヒュウガミズキ	<i>Corylopsis pauciflora</i>	落葉低木	-	-	□	-	-	-	-	
トサミズキ	<i>Corylopsis spicata</i>	落葉低木	-	-	□	-	-	NT	-	
イスノキ	<i>Distylium racemosum</i>	常緑高木	○	△	△	-	-	-	-	
マンサク	<i>Hamamelis japonica</i>	落葉小高木	-	-	□	-	-	-	-	
<b>カツラ科 Cercidiphyllaceae</b>										
カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	落葉高木	-	-	○	-	-	-	-	
<b>ユズリハ科 Daphniphyllaceae</b>										
ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	常緑高木	○	-	○	-	-	-	-	
ヒメユズリハ	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	常緑高木	○	△	○	○	-	-	-	
<b>ブドウ科 Vitaceae</b>										
ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>heterophylla</i>	落葉藤本	-	-	-	○	-	-	-	
ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	落葉藤本	○	△	○	-	-	-	-	
サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>	落葉藤本	△	-	△	-	-	-	-	
<b>マメ科 Leguminosae(Fabaceae)</b>										
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	落葉高木	○	-	○	○	△	-	-	
トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i> var. <i>bungeana</i>	落葉低木	-	-	◆	-	-	-	-	中国原産
ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>	落葉低木	○	-	○	○	-	-	-	
マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
イヌエンジュ	<i>Maackia amurensis</i> subsp. <i>Buergeri</i>	落葉高木	-	-	□	-	-	-	-	
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	落葉藤本	○	-	○	○	-	-	-	
ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i>	落葉藤本	◎	-	○	○	-	-	-	
ナツフジ	<i>Millettia japonica</i>	落葉藤本	○	-	○	-	-	-	-	
<b>バラ科 Rosaceae</b>										
ザイフリボク	<i>Amelanchier asiatica</i>	落葉小高木	-	-	○	-	-	-	-	
ウラジロノキ	<i>Sorbus japonica</i>	落葉高木	◎	-	○	○	-	-	-	
ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	落葉高木	○	△	○	○	-	-	-	
ソメイヨシノ	<i>Prunus × yedoensis</i>	落葉高木	-	-	-	□	-	-	-	
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	常緑小高木	○	-	-	-	-	-	-	
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
リンボク	<i>Prunus spinulosa</i>	常緑高木	○	-	-	-	-	-	-	
コゴメウツギ	<i>Stephanandra incisa</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	落葉小高木	○	-	◎	-	-	-	-	
ケカマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>zollingeri</i>	落葉小高木	-	△	△	-	-	-	-	
タチバナモドキ	<i>Pyracantha angustifolia</i>	常緑低木	■	-	-	-	-	-	-	中国原産
ヤマナシ	<i>Pyrus pyrifolia</i>	落葉高木	△	△	-	-	-	-	-	
シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
ヤブイバラ	<i>Rosa onoei</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
ヤマイバラ	<i>Rosa sambucina</i>	落葉低木	△	△	-	-	-	-	-	
フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>	常緑藤本	○	-	○	-	-	-	-	
ビロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>	落葉低木	○	-	○	○	△	-	-	
クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
ミヤマフユイチゴ	<i>Rubus hakonensis</i>	常緑藤本	-	△	-	○	-	-	-	
ナガバモミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>palmatus</i>	落葉低木	○	-	○	○	-	-	-	
ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	落葉低木	○	-	◎	-	-	-	-	
コバノフユイチゴ	<i>Rubus pectinellus</i>	常緑藤本	◎	△	-	-	-	-	-	
ウラジロイチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	落葉低木	△	-	-	-	-	-	-	
ナンキンナナカマド	<i>Sorbus gracilis</i>	落葉低木	△	△	-	-	-	-	-	
ナガバキイチゴ	<i>Viburnum furcatum</i>	落葉低木	△	△	-	-	-	-	-	
<b>グミ科 Elaeagnaceae</b>										
ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	常緑低木	○	-	◎	○	△	-	-	
ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>	常緑低木	◎	-	○	○	-	-	-	

表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
マルバツルグミ	<i>Elaeagnus x reflexa</i>	常緑低木	△	-	-	-	-	-	-	
<b>クロウメモドキ科 Rhamnaceae</b>										
クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>	落葉藤本	◎	-	-	-	-	-	-	
ネコノチチ	<i>Rhamnella franguloides</i>	落葉小高木	△	-	-	-	-	-	-	
<b>ニレ科 Ulmaceae</b>										
アキニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>	落葉高木	-	△	-	-	-	-	-	
ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	-	
<b>アサ科 Cannabaceae</b>										
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
エノキ	<i>Celtis sinensis var. japonica</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>クワ科 Moraceae</b>										
ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	落葉小高木	○	△	○	-	-	-	-	
ツルコウゾ	<i>Broussonetia kaempferi</i>	落葉藤本	○	-	○	-	-	-	-	
イヌビワ	<i>Ficus erecta</i>	落葉小高木	◎	-	○	○	-	-	-	
ホソバイヌビワ	<i>Ficus erecta f. sieboldii</i>	落葉小高木	-	-	-	○	-	-	-	
イタビカズラ	<i>Ficus nipponica</i>	常緑藤本	○	-	-	○	-	-	-	
ヒメイタビ	<i>Ficus thunbergii</i>	常緑藤本	-	-	△	-	-	-	-	
ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	落葉高木	-	△	○	-	-	-	-	
<b>イラクサ科 Urticaceae</b>										
コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>	落葉低木	◎	-	○	○	-	-	-	
<b>ブナ科 Fagaceae</b>										
クリ	<i>Castanea crenata</i>	落葉高木	○	△	◎	○	-	-	-	
コジイ	<i>Castanopsis cuspidata</i>	常緑高木	-	△	-	-	-	-	-	
スダジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	-	
ブナ	<i>Fagus crenata</i>	落葉高木	◎	△	-	-	-	-	-	
マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	-	
シリブカガシ	<i>Lithocarpus glabra</i>	常緑高木	-	△	○	○	-	-	-	
アカガシ	<i>Quercus acuta</i>	常緑高木	◎	△	-	-	-	-	-	
クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	-	
カシワ	<i>Quercus dentata</i>	落葉高木	-	-	□	-	-	-	EN	
アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	常緑高木	○	△	◎	○	-	-	-	
イチイガシ	<i>Quercus gilva</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	-	
オオバコナラ	<i>Quercus x major</i>	落葉高木	-	-	△	-	-	-	-	
シラカシ	<i>Quercus myrsinifolia</i>	常緑高木	△	-	○	-	-	-	-	
ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>	常緑高木	○	-	○	-	-	-	-	
コナラ	<i>Quercus serrata</i>	落葉高木	○	-	◎	○	-	-	-	
<b>ヤマモモ科 Myricaceae</b>										
ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>	常緑高木	-	-	○	○	-	-	-	
<b>クルミ科 Juglandaceae</b>										
ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>	落葉高木	○	-	◎	○	-	-	-	
<b>カバノキ科 Betulaceae</b>										
オオバヤシヤブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
ミズメ	<i>Betula grossa</i>	落葉高木	◎	-	-	-	-	-	-	
クマシデ	<i>Carpinus japonica</i>	落葉高木	△	-	-	-	-	-	-	
アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>	落葉高木	◎	△	◎	-	-	-	-	
イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	落葉高木	○	-	-	-	-	-	-	
<b>ニシキギ科 Celastraceae</b>										
ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>	落葉藤本	◎	△	○	-	-	-	-	
ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>	落葉低木	○	-	○	○	-	-	-	
ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i>	常緑藤本	○	-	-	-	-	-	-	
マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	常緑小高木	-	-	○	-	-	-	-	
ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>	落葉小高木	◎	△	-	-	-	-	-	
マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	落葉小高木	◎	△	-	-	-	-	-	
<b>ホルトノキ科 Elaeocarpaceae</b>										
ホルトノキ	<i>Elaeocarpus sylvestris</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	-	
<b>トウダイグサ科 Euphorbiaceae</b>										
カンコノキ	<i>Glochidion obovatum</i>	落葉低木	-	-	-	-	△	-	-	
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
シラキ	<i>Sapium japonica</i>	落葉小高木	◎	△	-	-	-	-	-	
<b>コミカンソウ科 Phyllanthaceae</b>										



表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
コパンノキ	<i>Phyllanthus flexuosus</i>	落葉低木	○	-	○	-	-	-	-	
<b>ヤナギ科 Salicaceae</b>										
イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	落葉高木	○	-	-	-	-	-	-	
ネコヤナギ	<i>Salix gracilistyla</i>	落葉低木	-	-	△	-	-	-	-	
ヤマヤナギ	<i>Salix sieboldiana</i>	落葉小高木	◎	△	○	-	-	-	-	
ノヤナギ	<i>Salix subopposita</i>	落葉低木	-	-	-	-	△	-	NT	
<b>ミツバウツギ科 Staphyleaceae</b>										
ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>	落葉小高木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>ウルシ科 Anacardiaceae</b>										
ハゼノキ	<i>Rhus succedaneum</i>	落葉高木	-	-	○	○	-	-	-	
ヤマハゼ	<i>Rhus sylvestre</i>	落葉高木	○	-	◎	○	-	-	-	
ヤマウルシ	<i>Rhus trichocarpum</i>	落葉小高木	◎	-	◎	○	-	-	-	
ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>roxburghii</i>	落葉小高木	○	-	○	○	-	-	-	
ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>	落葉藤本	-	△	-	-	-	-	-	
<b>ムクロジ科 Sapindaceae</b>										
オオモミジ	<i>Acer amoenum</i>	落葉高木	-	-	□	-	-	-	-	
チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i>	落葉高木	◎	-	-	-	-	-	-	
ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>	落葉小高木	△	-	-	-	-	-	-	
コミネカエデ	<i>Acer micranthum</i>	落葉小高木	◎	-	-	-	-	-	-	
イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	落葉高木	◎	-	○	-	-	-	-	
ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	落葉高木	◎	△	○	-	-	-	-	
コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	落葉高木	◎	△	-	-	-	-	-	
<b>ミカン科 Rutaceae</b>										
コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	落葉低木	-	△	○	-	-	-	-	
キハダ	<i>Phellodendron amurense</i>	落葉高木	-	-	□	-	-	-	EN	
ツルシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>intermedia</i>	常緑低木	◎	△	-	-	-	-	-	
カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	-	
フユザンショウ	<i>Zanthoxylum armatum</i> var. <i>subtrifoliatum</i>	常緑低木	△	-	-	-	-	-	-	
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	落葉低木	○	-	○	-	-	-	-	
イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	落葉低木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>ニガキ科 Simaroubaceae</b>										
ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>	落葉高木	-	-	○	-	-	-	-	
<b>センダン科 Meliaceae</b>										
センダン	<i>Melia azedarach</i> var. <i>subtripinnata</i>	落葉高木	○	-	-	-	-	-	-	
<b>アオイ科 Malvaceae</b>										
ヘラノキ	<i>Tilia kiusiana</i>	落葉高木	-	-	○	-	△	-	-	
<b>ジンチョウゲ科 Thymelaeaceae</b>										
コショウノキ	<i>Daphne kiusiana</i>	常緑低木	○	-	-	-	-	-	-	
キガンピ	<i>Diplomorpha trichotoma</i>	落葉低木	○	-	◎	-	△	-	-	
ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>	落葉低木	-	-	■	-	-	-	-	中国原産
<b>ビャクダン科 Santalaceae</b>										
ヤドリギ	<i>Viscum album</i> subsp. <i>Coloratum</i>	常緑低木	○	-	-	-	-	-	-	
<b>オオバヤドリギ科 Loranthaceae</b>										
オオバヤドリギ	<i>Scurrula yadoriki</i>	常緑低木	-	-	-	-	△	-	-	
<b>ボロボロノキ科 Olacaceae</b>										
ボロボロノキ	<i>Schoepfia jasminodora</i>	落葉小高木	-	-	-	○	-	-	-	
<b>ミズキ科 Cornaceae</b>										
ウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> var. <i>trilobum</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
モミジウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> var. <i>platanifolium</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
ミズキ	<i>Swida controversa</i>	落葉高木	○	-	-	○	-	-	-	
ヤマボウシ	<i>Benthamidia japonica</i>	落葉小高木	◎	△	○	-	-	-	-	
クマノミズキ	<i>Swida macrophylla</i>	落葉高木	○	△	◎	-	-	-	-	
サンシュユ	<i>Cornus officinalis</i>	落葉小高木	-	-	■	-	-	-	-	中国・朝鮮原産
<b>アジサイ科 Hydrostacbyaceae</b>										
ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	落葉低木	○	-	○	○	-	-	-	
ブンゴウツギ	<i>Deutzia gracilis</i> var. <i>zentaroana</i>	落葉低木	△	-	-	-	-	VU	-	
マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
ノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i>	落葉小高木	△	-	-	-	-	-	-	
ツルアジサイ	<i>Hydrangea petiolaris</i>	落葉藤本	○	-	-	-	-	-	-	

表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
ヤマアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i>	落葉低木	◎	-	△	-	-	-	-	
コガクウツギ	<i>Hydrangea luteorensa</i>	落葉低木	◎	△	○	○	-	-	-	
イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	落葉藤本	◎	△	-	-	-	-	-	
<b>サカキ科 Pentaphylacaceae</b>										
サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	-	
ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	常緑小高木	◎	△	○	○	-	-	-	
モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	常緑高木	○	-	○	-	-	-	-	
<b>カキノキ科 Ebenaceae</b>										
カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	落葉高木	-	-	-	○	-	-	-	
ヤマガキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>sylvestris</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	-	
リュウキュウマメガキ <sup>5)</sup>	<i>Diospyros japonica</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	-	CR
<b>サクラソウ科 Primulaceae</b>										
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	常緑低木	○	-	-	-	-	-	-	
ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	常緑低木	◎	△	○	-	-	-	-	
イズセンリョウ	<i>Maesa japonica</i>	常緑低木	○	-	○	-	-	-	-	
<b>ツバキ科 Theaceae</b>										
ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	常緑高木	◎	△	○	○	-	-	-	
サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>	常緑小高木	-	-	□	-	-	-	-	NT
チャノキ	<i>Camellia sinensis</i>	常緑低木	-	-	◆	-	-	-	-	中国～インド、東南アジア原産
ナツツバキ	<i>Stewartia pseudo-camellia</i>	落葉高木	-	-	□	-	-	-	-	
<b>ハイノキ科 Symplocaceae</b>										
タンナサワフタギ	<i>Symplocos coreana</i>	落葉小高木	◎	△	-	-	-	-	-	
ミズバイ	<i>Symplocos glauca</i>	常緑高木	-	-	○	○	-	-	-	
ハイノキ	<i>Symplocos myrtaea</i>	常緑小高木	◎	△	○	-	-	-	-	
クロキ	<i>Symplocos lucida</i>	常緑小高木	○	△	○	○	-	-	-	
シロバイ	<i>Symplocos lancifolia</i>	常緑小高木	○	-	-	-	-	-	-	
クロバイ	<i>Symplocos prunifolia</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>エゴノキ科 Styrcaceae</b>										
アサガラ	<i>Pterostyrax corymbosus</i>	落葉小高木	○	-	-	-	-	-	-	
エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	落葉高木	○	-	○	○	-	-	-	
<b>マタタビ科 Actinidiaceae</b>										
サルナシ	<i>Actinidia arguta</i>	落葉藤本	◎	-	-	-	-	-	-	
ウラジロマタタビ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>hypoleuca</i>	落葉藤本	△	-	-	-	-	-	-	
マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>	落葉藤本	○	-	-	-	-	-	-	
<b>リョウブ科 Clethraceae</b>										
リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	落葉小高木	◎	-	○	○	-	-	-	
<b>ツツジ科 Ericaceae</b>										
ベニドウダンツツジ	<i>Enkianthus cernuus</i>	落葉低木	◎	-	-	-	-	-	-	
ドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	-	
ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i>	落葉小高木	◎	-	○	○	-	-	-	
アセビ	<i>Pieris japonica</i>	落葉小高木	-	-	○	-	-	-	-	
ツクシシャクナゲ	<i>Rhododendron degronianum</i> subsp. <i>Heptamerum</i>	落葉小高木	○	△	□	-	-	-	-	
ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>	半常緑低木	◎	-	○	-	-	-	-	
コバノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>	落葉低木	◎	△	-	○	-	-	-	
バイカツツジ	<i>Rhododendron semibarbatum</i>	落葉低木	△	-	-	-	-	-	-	
シャシャンボ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	常緑小高木	○	-	○	○	-	-	-	
ウスノキ	<i>Vaccinium hirtum</i> var. <i>pubescens</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	-	
アクシバ	<i>Vaccinium japonicum</i>	落葉低木	◎	-	-	-	-	-	-	
<b>アオキ科 Garryaceae</b>										
アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	常緑低木	○	△	○	○	-	-	-	
<b>アカネ科 Rubiaceae</b>										
オオアリドウシ	<i>Damnacanthus indicus</i> subsp. <i>major</i>	常緑低木	○	-	○	-	-	-	-	
ジュズネノキ	<i>Damnacanthus marcrophyllus</i>	常緑低木	○	-	-	-	-	-	-	
<b>キョウチクトウ科 Apocynaceae</b>										
サカキカズラ	<i>Anodendron affine</i>	常緑藤本	○	-	-	-	-	-	-	
テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>	常緑藤本	◎	△	○	○	-	-	-	
<b>ムラサキ科 Boraginaceae</b>										
チシャノキ	<i>Ehretia ovalifolia</i>	落葉高木	-	-	○	-	-	-	-	
<b>モクセイ科 Oleaceae</b>										

表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系			RDL <sup>4)</sup>		備考	
			宇美町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>		環境省
マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>	落葉高木	○	-	○	-	-	-	6
ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	常緑小高木	○	△	○	○	-	-	
イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	落葉低木	○	-	○	-	-	-	
キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	常緑小高木	-	-	■	-	-	-	
ヒラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	常緑小高木	-	-	○	-	-	-	中国原産
<b>シソ科 Lamiales</b>									
ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	落葉低木	○	-	○	-	-	-	
オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	
ヤマムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	落葉低木	◎	-	○	○	-	-	
クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	落葉小高木	○	-	○	○	-	-	
ハクサギ	<i>Premna microphylla</i>	落葉小高木	○	-	○	○	-	-	
<b>モチノキ科 aquifoliaceae</b>									
アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	落葉高木	◎	△	○	-	-	-	
イヌウメモドキ	<i>Ilex serrata</i> f. <i>argutidens</i>	落葉低木	◎	-	-	-	-	-	
タマミズキ	<i>Ilex micrococca</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	
ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	常緑小高木	○	-	◎	○	-	-	
モチノキ	<i>Ilex integra</i>	常緑高木	○	-	○	○	-	-	
クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	常緑高木	○	-	○	-	-	-	
ナナミノキ	<i>Ilex chinensis</i>	常緑高木	-	-	-	○	-	-	
シイモチ	<i>Ilex buergeri</i>	常緑高木	-	-	○	-	-	-	
イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	常緑小高木	◎	△	○	-	-	-	
<b>レンブクソウ科 Adoxaceae</b>									
ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> subsp. <i>sieboldiana</i>	落葉小高木	○	-	○	○	-	-	
ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	
コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i> var. <i>punctatum</i>	落葉低木	○	△	○	-	-	-	
オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>	落葉小高木	△	-	-	-	-	-	
ハクサンボク	<i>Viburnum japonicum</i>	常緑小高木	-	-	○	-	-	-	
サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>	常緑高木	○	-	○	-	-	-	
オトコヨウゾメ	<i>Viburnum phlebotrichum</i>	落葉低木	○	△	-	-	-	-	
コヤブデマリ	<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>parvifolium</i>	落葉小高木	○	-	-	-	-	-	
ゴマギ	<i>Viburnum sieboldii</i>	落葉小高木	○	-	-	-	-	-	
ヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i>	落葉低木	◎	△	-	-	-	-	
ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i>	落葉低木	○	-	-	-	-	-	
<b>スイカズラ科 Caprifoliaceae</b>									
コックバネウツギ	<i>Abelia serrata</i>	落葉低木	◎	-	○	-	-	-	
ハマニンドウ	<i>Lonicera affinis</i>	半常緑藤本	○	-	○	-	-	-	
ミヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i>	落葉低木	△	-	-	-	-	-	
ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i>	落葉低木	-	-	○	-	-	-	
キダチニンドウ	<i>Lonicera hypoglauca</i>	半常緑藤本	-	-	-	○	-	-	
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	半常緑藤本	○	-	-	-	-	-	
<b>トベラ科 Pittosporaceae</b>									
トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	常緑小高木	-	-	-	○	-	-	
<b>ウコギ科 Araliaceae</b>									
タラノキ	<i>Aralia elata</i>	落葉小高木	○	-	○	-	-	-	
コシアブラ	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i>	落葉高木	◎	△	◎	○	-	-	
カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>	常緑高木	○	△	◎	○	-	-	
オカウコギ	<i>Acanthopanax japonicus</i>	落葉低木	○	-	○	-	-	-	
ウラゲウコギ	<i>Acanthopanax japonicus</i> var. <i>nikaianus</i>	落葉低木	-	△	-	-	-	-	
ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	常緑低木	-	-	○	○	-	-	
タカノツメ	<i>Evodiapanax innovans</i>	落葉高木	◎	△	○	-	-	-	
キヅタ	<i>Hedera rhombea</i>	常緑藤本	◎	-	○	-	-	-	
<b>イネ科 Poaceae(Gramineae)</b>									
マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>	多年草	-	-	○	○	-	-	
モウソウチク	<i>Phyllostachys heterocycla</i>	多年草	-	-	-	◆	-	-	

表2 (続き)

種名	学名	生活型	三郡山系					RDL <sup>4)</sup>		備考
			井家町内 <sup>1)</sup>	宇美町外 <sup>2)</sup>	四王寺山脈	井野山	宇美町内 <sup>3)</sup>	環境省	福岡県	
ネザサ	<i>Pleioblastus argenteostriatus</i> cv. <i>Disticha</i>	多年草	○	-	○	-	-	-	-	
ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>	多年草	-	-	○	-	-	-	-	
ミヤコザサ	<i>Sasa nipponica</i>	多年草	○	-	-	-	-	-	-	
オカメザサ	<i>Shibataea kumasaca</i>	多年草	-	-	□	-	-	-	-	

○: 現地調査で確認、◎: 現地調査で確認+資料調査で記載あり、△: 資料調査で記載あり、□: 植栽の可能性が高い、■: 植栽(外来)、◆: 外来逸出・帰化  
CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧

外来種は原産地を記載

1) 若杉山および宝満山を除く三郡山系

2) 若杉山および宝満山

3) 山岳地以外

4) Red Data List: レッドデータリスト

5) マメガキの可能性もあったが、ここではリュウキュウマメガキとした

(*Schoepfia jasminodora*), カキノキ (*Diospyros kaki*), ナナミノキ (*Ilex chinensis*), トベラ (*Pittosporum tobira*), ホソバイスビワ (*Ficus erecta* f. *sieboldii*), ノブドウ (*Ampelopsis glandulosa*), キダチニンドウ (*Lonicera hypoglauca*) およびモウソウチク (*Phyllostachys heterocycla*) の9種であった(表2)。井野山は、標高が300mにも満たないため、三郡山系にみられるブナ等の冷温帯林を構成する落葉広葉樹種は分布しなかった。

### 3.2. レッドリストに記載された木本種

本研究で確認された木本種のうち、環境省(2018)および福岡県(2019)のレッドリストに記載されていたのは、それぞれ2種および8種であり、両者に共通の種はなかった。

#### 3.2.1. 環境省(2018)版レッドリスト

「絶滅危惧II類(VU: 絶滅の危険が増大している種)」であるブンゴウツギ(*Deutzia zentaroana*)は、福岡県内および九州各地(南限は熊本県球磨地方)に分布している(初島2004; 猪上2005)。本種の植物標本は、1973年に三郡山系(標高700m)で採取されていたが(猪上2005)、現地調査ではその分布を確認することができなかった。今後、三郡山系での分布について、再確認することが望ましいと考えられる。

トサミズキは「準絶滅危惧(NT: 現時点で絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)」とされている。本種は、高知県の蛇紋岩地や石灰岩地が自生地とされ、福岡県内において自生地はない。過去に、篠栗町で標本が採取されているが(猪上2005)、植栽であるとされる。本研究で、四王寺山脈において確認された個体(株)についても、植栽されたものであると判断された。

#### 3.2.2. 福岡県(2019)版レッドリスト

福岡県(2019)のレッドリストには、「絶滅危惧IA類(CR)」が1種、「絶滅危惧IB類(EN)」が2種、「絶滅危惧II類(VU)」が1種、「準絶滅危惧(NT)」が4種の記載があった。

「絶滅危惧IA類: CR」であるリュウキュウマメガキ(*Diospyros japonica*)は福岡県内ではみやこ町等で自生地は極限されているとされるが(福岡県2019)、三郡山系での現地調査では単木的な分布が確認できた。

「絶滅危惧IB類(EN)」としてはカシワおよびキハダがあり、前者は福津市渡半島付近が福岡県内唯一の自生地とされる(初島2004; 福岡県2019)。後者は、冷温帯に出現するとされ、県内では大分県境の釈迦岳(33°11'15"N, 130°53'20"E, 1,231m)や犬ヶ岳(33°30'44"N, 131°00'06"E, 1,131m)等に稀に自生する(福岡県2019)。本研究の現地調査で、両種とも四王寺山脈において確認されているが、以上のことから、それぞれ植栽によると考えられた。

「絶滅危惧II類(VU)」であるツゲは、古処山(朝倉市と嘉麻市の境, 33°29'02"N, 130°43'32"E, 860m)や香春岳(香春町, 33°41'32"N, 130°50'41"E, 509m)に自生する(福岡県2019)。本種は、本研究の現地調査において四王寺山脈でのみ確認されたが、植栽されたものであると考えられた。

「準絶滅危惧(NT)」としては、ヒノキ、ネズミサシ、ノヤナギ(*Salix subopposita*)およびサザンカ(*Camellia sasanqua*)がリストされている。ヒノキは我が国における主要な造林樹種であるが、リストされた要因は、福岡県内の自生地が英彦山(33°28'34"N, 130°55'34"E, 1,199m)周辺に限られているからである(福岡県2019)。現地調査を行った3エリアでは、ヒノキはいずれも人工林として植栽されていることが確認された。

ネズミサシは、県内の各地に散在するが(初島2004; 猪上2005)、築上町の溶結凝灰岩岩峰や篠栗町の蛇紋岩地帯には比較的多く分布するとされる(猪上2005)。本研究の現地調査および資料調査でも四王寺山脈での分布が確認さ



れ、これらは自生であると考えられる。すなわち、四王寺山脈はネズミサシの保全上重要な自生地であることが示唆される。

サザンカは、亜熱帯から暖温帯にかけての照葉樹林に分布する。福岡県内では宗像市と岡垣町の境にある戸田山(33°49'10"N, 130°37'29"E, 267m)および久留米市耳納山地に属する長岩山(33°17'55"N, 130°37'47"E, 547m)において、貴重な群落を形成しており(福岡県 2019)、また県西部の浮岳(33°28'12"N, 130°05'57"E, 805m)にも分布するとされる(初島 2004)。このようにサザンカは、福岡県内では稀少であり、四王寺山脈の現地調査で確認された個体については、当該地の植栽樹種の多さ、また他の調査地での未確認などから植栽の可能性が高いと考えられた。

ノヤナギは、県内に広く分布するとされ(初島 2004)、過去に宇美町内での分布も確認されている(猪上 2005)。しかしながら、過去の分布地が現地調査の対象地には含まれていなかったことから、現状は不明であり、今後の再調査が望まれる。

#### 4. おわりに

本研究より宇美町内に出現する木本種の284種(6種は町外の三郡山系)を整理することができた。その中で環境省および福岡県のレッドリストに掲載されていたのは、それぞれ2種および8種であった。木本種以外でも、宇美町内に分布が確認されている6種の草本種が、福岡県(2019)のレッドデータリストに記載されている。すなわち、「絶滅危惧ⅠA類」としてキスゲ(ユウスゲ: *Hemerocallis citrina* var. *vespertina*)およびトキワシダ(*Asplenium yoshinagae*)、「絶滅危惧ⅠB類」としてヒメスゲ(*Carex oxyandra*)、「絶滅危惧Ⅱ類」としてサワギキョウ(*Lobelia sessilifolia*)、「準絶滅危惧種」としてウンゼンカンアオイ(*Asarum unzen*)およびナガバノウナギツカミ(*Persicaria hastatosagittata*)である。このうち、環境省(2019)のレッドデータリストには、ウンゼンカンアオイが「絶滅危惧Ⅱ類」、ナガバノウナギツカミが「準絶滅危惧」にリストされている。これらの草本種は、分布地が限られていることに加え、分布地(主に草地あるいは湿地)の開発や園芸目的の採取、遷移の進行によって存続の危機にある。また、宇美町内には、貴重な草本群落として「ミヤマシラスゲ群落」が福岡県(2019)のレッドリストの『カテゴリーⅢ』にあげられている。

以上のことから、宇美町内には三郡山系を中心に多くの貴重な木本種および草本種が分布し、重要な森林群落や草本群落が存在することが示唆され、これらの保全を進めていくことが望ましい。そのためには、宇美町はもとより、国有林を管理する林野庁九州森林管理局福岡森林管理署、福岡県および隣接する自治体等と連携して、保全策を立案するとともに保全活動を実施していくことが急務かつ不可欠であり、本研究がその一助になれば幸いである。

## 謝辞

本研究を遂行するにあたり、現地調査では福岡森林管理署ならびに県民の森管理事務所に入林等の許可をいただいた。また、国有林に関する情報は、福岡森林管理署の厚意で提供いただいた。現地調査では、元森林総合研究所九州支所の田口敬子氏ならびに田中良平博士にご協力いただいた。以上、深甚の謝意を表す。なお、本研究は宇美町からの受託研究『宇美町内に残存する貴重な森林群落の保全に関する研究(代表:金谷整一, 2017~2018年度)』により実施されたことを付記する。

## 引用文献

- 福岡県(2019) 福岡県の希少野生生物. <http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyo/rdb/> 2019年3月参照
- 初島住彦(2004) 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告1: 1-343
- 林 将之(2014) 樹木の葉 実物スキャンで見分ける1100種類. 山と溪谷社, 東京
- 冷川昌彦(2011) 宝満山周辺の植生史と里地・里山の利用の姿—高雄山頂・大行事とは—. 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要6: 251-263
- 猪上信義(2005) 福岡県森林林業技術センター所蔵植物標本目録(上). 福岡県森林林業技術センター研究報告5: 1-211
- 井上 晋・山野辺捷雄(2000) 九州のブナ天然林の生体に関する研究(Ⅲ)—三郡山地の天然林の植生的特性—. 日本林学会九州支部研究論文集53: 95-96
- 板橋幸史・作田耕太郎・金谷整一・松尾尚哉(2019) 三郡山系山頂付近における夏緑樹林の群落構造. 九州森林研究72: 83-86
- 環境省(2019) 環境省レッドリスト2019. <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/booklist> 2019年3月参照
- 環境庁(1980) 日本の重要な植物群落(北九州版). 大蔵省印刷局, 東京
- 環境庁(1988) 日本の重要な植物群落Ⅱ 九州版1. 大蔵省印刷局, 東京
- 気象庁(2019) 過去の気象データ. [http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/annually\\_a.php?prec\\_no=82&block\\_no=1141&year=2018&month=&day=&view=2019](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/annually_a.php?prec_no=82&block_no=1141&year=2018&month=&day=&view=2019) 2019年12月参照
- 久米 篤・渡辺幸一・永淵 修・朴木英治(2011) 広域大気汚染の現状と森林生態系への影響—屋久島と立山の事例—. 日本生態学会誌61: 97-106
- 前迫ゆり・高槻成紀(2015) シカの脅威と森の未来 シカ柵による植生保全の有効性と限界. 文一総合出版, 東京
- 松井哲哉・田中信行・八木橋勉・小南裕志・津山幾太郎・高橋 潔(2009) 温暖化にともなうブナ林の適域の変化予測と影響評価. 地球環境14: 165-174

- 永淵 修 (2000) 屋久島における大陸起源汚染物質の飛来と樹木衰退の現状. 日本生態学会誌 50 : 303-309
- 西尾孝佳・福嶋 司 (1996) 九州地方のブナ林群落における組成分化の機構. 植生学会誌 13 : 73-86
- 農林水産省 (2019) 市町村の姿 グラフ統計でみる農林水産業 詳細データ 福岡県宇美町. <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/40/341/details.html#top> 2019年3月参照
- 佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫 (1989) 日本の野生植物 木本Ⅰ. 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫 (1989) 日本の野生植物 木本Ⅱ. 平凡社, 東京
- 須田隆一・杉 泰昭・宇都宮彬・大石興弘・濱村研吾 (1992) 酸性雨などによる植物衰退減少の実態／宝満山 (福岡県) モミ. 資源環境対策 28 : 1344-1348
- 田中信行・松井哲哉・八木橋勉・埜田 宏 (2006) 天然林の分布を規定する気候要因と温暖化の影響予測：とくにブナ林について. 地球環境 11 : 11-20
- 宇美町 (2018) 宇美町観光情報 登山道コース・マップ. <https://www.town.umi.lg.jp/site/tozan/index.html> 2019年3月参照
- 宇都宮彬・大石興弘・濱村研吾・須田隆一・石橋龍吾・溝口次夫 (1993) 山岳地域自然林の土壌特性と酸性降下物. 大気汚染学会誌 28 : 159-167

(2019年10月21日受付：2020年1月24日受理)